

●木津川希少種生育調査業務 春(4~5月)の除草作業 残る京田辺市域精華町分を完了

2017年度の取組で最も大きくて重要な事業は、中聖牛の設置だと思えます。何しろ大きな構造物を設置して洪水の流れから護岸する役割を果たす伝統工法を再現したことであります。そしてもう一つは木津川堤防を中心として20年間生育植物の調査を行い、917種の植物を確認してきた調査観察活動を基礎にして、希少植物27種の生育調査と管理保全業務が国土交通省近畿地方整備局から特定非営利活動法人やましる里山の会に発注されたことです。

その業務の完了報告が承認され、同事業が2018年度にも公募され、結果引き続き里山の会に受注があったということでもあります。5月5・6日の連休と15日に8カ所4,800平方メートルの除草を行いました。播川、有田、津川さんの三人が終日大奮闘をいただきました。計画場所の作業除草は終わったのですが、引き続き刈り取った刈草の収集を行い、運び出し刈草の処分作業が待っています。そして春は、除草作業の中で最も面倒なクズの繁茂が始まります。放置すると我が物顔に大繁茂し、一面を覆いつくします。秋の刈取りには刈り取り機にまつわりついて、非常にてこずりますから、一日も早く刈り取っておくことが必要であります。皆様のご協力お願いいたします。

●レンリソウ生育池 セイバンモロコシ刈取りできる 水面でも陸上でも川でも山でも、いたるところで自然界では外来種の侵入が在来生物に大きな影響を及ぼしています。木津川の堤防や河川敷でも影響が広がっています。里山の会が木津川堤防で植物調査を開始した頃には、背の高いセイバンモロコシは数本ちらほら見え始めていたのですが、20年経過してくると、それが田んぼの稲のように風にざわめき波の様相を見せてきました。今年は木津川でしか生育していない絶滅寸前種のレンリソウの生育地に一面覆いつくしました。何とか生き残ってくれていたレンリソウがこのままでは消えてしまうのではないかという勢いです。取り除こうにも根がしっかり張っていますので、やむなく鎌で刈り倒すしか方法が見つかりません。同じ緑色なので選別も困難なのです。苦勞しながら少しずつ花の咲く前には、やっつけておきたいと苦勞しています。

●個別専門会議 会員の配置案決まる やましる里山の会会員数は3月現在129名で2012年には213名だったのですから5年間で84名の減少となっています。先日の第24回通常総会で、この現状なら里山の会の余命は残り数年となると厳しい指摘が報告されました。2年半後には結成25周年記念の年を迎えることとなります。その時までの2年半をどのように取り組んでいくのかにかかっています。会員数は自主財源として最も大切で安定的な財源であります。この減少傾向から立ち直る日があるとして、対応策として個別専門会議を設定し、全会員の所属場所を設け、つなぎあえる場所を作り、減少を食い止めたいと取り組みが始まりました。これまでは会誌送付という関係、メールによる一方通行という関係から、面倒ですが改善を図りたいとしています。会員各位の意向を聞くことなく割り振りましたが、連絡が届きましたら、いろいろご意見をお聞かせください。

●カスミサンショウウオの移植保全対策の必要性高まる カスミサンショウウオを最初に発見した10年前の場所は、昨年発見した場所とは裏腹の関係にあります。現在その場所がどのようになっているのかと調べてみようと2年目には、かなり湿地状態の場所が狭くなって薄い水の広がり小さくなっていました。翌年、同時期には卵のうは全く見つけられず、すっかり干上がって、水が狭く流れている状況で、水たまりという場所は見られません。もちろん卵のうの姿はなく、発見した時と較べて湿地状態はなくなっていました。完全にカスミサンショウウオが生育できる環境ではなくなっているように見えました。以後、毎年調査に訪れることもなくなりました。この場所でのカスミサンショウウオの姿は見られなくなりました。この経験がありますので、現在生育している場所も、いついかなる変化がおとずれるかもしれない状態です。距離にして150mか200m程度なのです。なんとか次の生育場所に移植してということは奈良公園のニホンバラタナゴの例を見てもいい教訓です。こうした経験から再度移植を考えてみたいものです。

## ●2017年度分京都府地域力再生プロジェクト事業交付金の金額の確定通知が届く 977,000円

交付金や支援金、助成金等いろいろ苦労しながら申請作業を繰り返してきています。そして、里山の会はこの数年連続して地域力再生プロジェクト事業交付金を受けてきました。年間活動報告書を提出してきました。何ごとにも記録をしっかりと残し、整理をして年度末に提出を行います。この作業がなかなか面倒な作業なのです。使ったお金の報告、そして活動記録、その一つひとつに間違いなく整えることは至難の作業なのです。専門の職員がいるわけではありませんので大変です。5月9日付けで提出書類について合格となる連絡が届きました。皆さんで取り組んだ「京都子どもの水辺、カスミサンショウウオ、オオムラサキ調査、竹蛇籠製作と中聖牛の設置、木津川はどんな川の冊子」と現地設営会展示、そして県外研修の6事業での取組にご協力頂きましてありがとうございました。

●夏野菜の植付け作業 11人の参加で実施される 例年に比べて植付け時期が遅れましたが、この日、11名の皆さんが集まっていただきましたマクワウリ、ピーマン、カボチャ キウリ、ナス、トマトを植え付けました。久しぶりに大勢の参加があり、里山農園がにぎわいを取り戻しました。植付けは約2時間の作業でした。これからの1週間が最も大切で、朝夕に水やりが必要です。根付いて水を吸い上げることが出来るようになる一週間の見守りが必要です。約2か月後には収穫が始まります。この時期は雑草も勢いを増して花を咲かせ実を実らせ子孫つくりとなります。少しでも手を抜くと雑草が繁茂します。手間を惜しまず雑草除去が必要です。肥料を与えても全部雑草が先に吸い取ります。こまめな作業をどこまで継続出来るかによって、味も収量にも影響が出てきます。お手伝いにお越しく下さい。

今年は植付け時期をこの日だけにしないで、少し(2週間から3週間)遅らせて第2段階の植付けを行ってはどうかと提案しています。収穫時期を遅らせる試みを提案しています。収穫期間を長くすることです。試みてみませんか。

## ●個別専門会議農園Bが開かれる13日

●19日(土) 神矢樋門神谷地区救急排水ポンプ見学会 排水ポンプの点検にあわせて見学会を実施します。ウォーキングコース・・・13:00 京田辺市中部住民センター出発。国交省職員による水害の話などを聞きながら堤防を歩いて樋門へ向かいます。植物や昆虫の観察も行います。 現地集合コース・・・13:45 神矢樋門(近鉄鉄橋下の運動公園駐車場) 国交省木津川出張所所長や操作員の方から樋門や排水ポンプの説明を受け実際に排水を見学します。今年は土曜日に実施することができましたので平日はお仕事の方も是非ご参加ください。(当日7時の時点で京都府南部三重県北中部に大雨に関する注意報や警報が発令された場合は中止します)

## ●26日(土) 10:00 竹蛇籠の生き物調べ 北野大輔 小林慧人 竹門康弘先生(京都大学准教授)

蛇籠の頭部の損傷が大水によって発生しています。大きな変化があります。地形にもかなり影響があります。これまでと、どのように変化しているのでしょうか、影響はどのように現れているのか、生き物調査の結果が楽しみです。この調査に基づいて、秋に予定している修復方法を考えたいと思います。

ご参集ください 午前中に終了予定です。

## ●26日(土) 13:00 中部住民センター 講師江南和幸先生(前龍谷大学教授)

## ●27日 9:30 城陽市キッズスポーツ 教室 魚とり 30人

城陽市教育委員会からキッズスポーツの取組として魚とりの指導依頼がありました。27日(日)午前9時30分から始まります。場所は山城大橋東詰め橋下です。参加者は総勢40名(スタッフを含め)12時過ぎ解散です。天気や降雨や増水が心配ですが、雨天プラン(南コミセン)も用意しています。子どもたちと楽しいひと時を過ごしてみませんかスタッフとしてご参加ください。応援をお待ちしています。